

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 92人 国語B 92人

② 算数A 92人 算数B 92人

5 留意事項

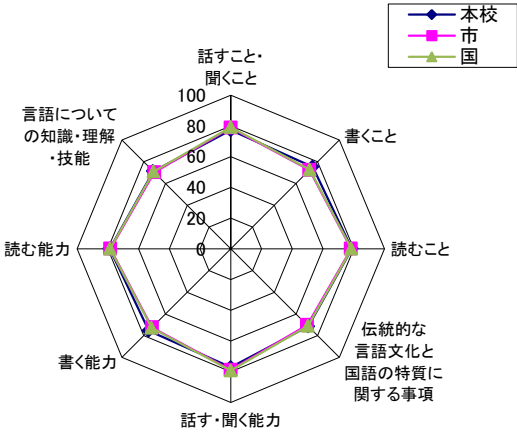
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

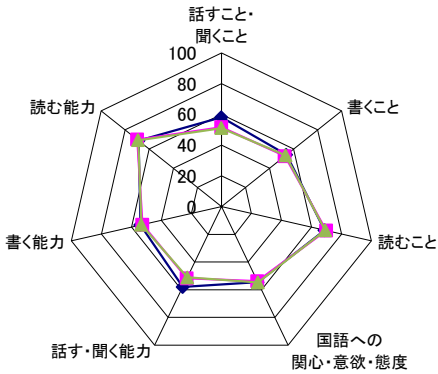
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.2	78.8	79.2
	書くこと	75.5	72.4	72.8
	読むこと	78.8	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.4	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.2	78.8	79.2
	書く能力	75.5	72.4	72.8
	読む能力	78.8	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	71.4	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	58.0	51.7	51.1
	書くこと	54.0	52.7	53.4
	読むこと	68.8	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	54.6	53.8	54.7
	話す・聞く能力	58.0	51.7	51.1
	書く能力	54.0	52.7	53.4
	読む能力	68.8	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

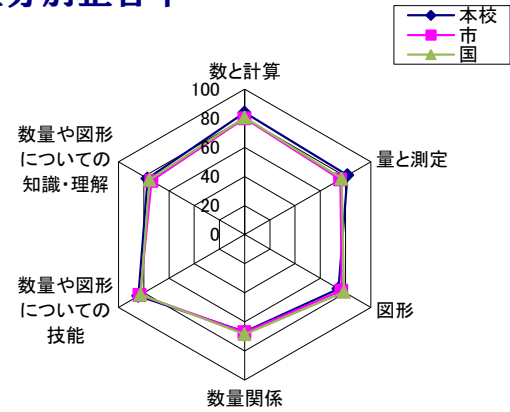
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●「目的に応じて質問したいことを整理したり、質問の意図を捉えたりすること」では、6割程度の正答率であり、全体の理解度としては不十分である。	・ことばの時間との連携を図り、話し方、聞き方、質問の仕方、答え方のスキルを身に付けさせるようにする。 ・学級活動など、特別活動との関連を図り、話し合い活動を充実させる。
書くこと	○表現の仕方をより良くするための工夫を選択する設問では、まとまりごとに番号を付けることや長い文はいくつかに分けたほうが内容が伝わりやすいことを理解している。 ●グラフを基に分かったことを的確に書く設問では正答率が低く、全国の平均を下回った。 ●目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを書く設問では1割の児童が無回答であった。	・作文を書く際に、文章の構成に効果的な表現について例示より良い表現を使えるように指導を工夫する。 ・推敲や読み合いの時間を十分に確保する。 ・意見文や説明文から作者の意図を読み取り、自分の考えを書く活動を意図的に行う。 ・資料の読み取りや、目的に応じた説明、結果からの考察など、他教科とも関連させ、内容を整理しながら書くことを意識させる。
読むこと	○「目的に応じて図と表を関連付けて読むこと」や、「複数の本や文章などを選んで読むこと」は、8割～9割以上の正答率であった。 ●登場人物像について複数の叙述を基に捉えることは6割程度の正答率であった。	・物語文や説明文、詩などを読む際に、作者の意図や物語が語りかけていることが捉えられるよう学習形態を工夫する。 ・読書活動を一層推進するとともに、読書を楽しめる環境の整備に努める。 ・読み聞かせやブックトークなどの時間を確保する。 ・調べ学習でも積極的に図書資料を活用するなど、他教科との関連を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることでは、8割以上の正答率であった。 ●平仮名で表記されたものをローマ字で書くことでは2割程度しか正答できなかった。ローマ字を読むことも4割の正答率であった。	・朝の学習時間を活用し、漢字の読み書きに一層力を入れる。 ・既習の漢字を日常的に使えるよう様々な場面で奨励する。 ・プリントなどを利用し、ローマ字の練習に取り組む。 ・英会話の時間で、アルファベットに親しむことや、自分の名前をローマ字で書くなど意図的に指導する。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

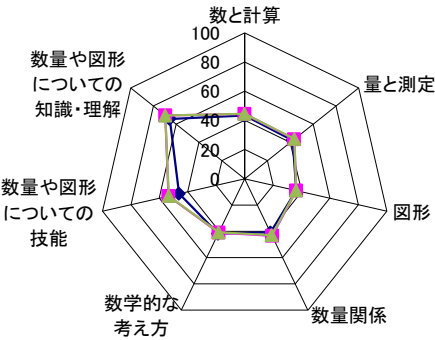
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	83.8	79.9	80.5
	量と測定	81.5	75.9	77.0
	図形	74.5	76.9	78.8
	数量関係	66.7	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	84.3	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	77.0	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.3	44.5	44.4
	量と測定	42.2	43.5	43.7
	図形	36.2	36.2	36.3
	数量関係	40.9	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.8	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	46.2	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	65.8	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○商の大きさの理解や小数の除法の計算、乗数が整数である場合の分数の乗法の計算、数の大小関係についての理解は8割から9割の正答率で、よく理解できている。 ●示された式に数値を当てはめ答えを導くことや乗法や除法の式の意味を解釈する問題では、正答率が5割程度で理解が不十分である。	・四則計算については、朝の学習で繰り返し取り組むことや、家庭学習と連携して奨励することなど、確実な定着を図る。 ・授業形態を工夫し、計算式に表した事柄やその関係などを説明する場を設定する。
量と測定	○三角形の底辺と高さの関係については9割近くが理解している。 ●単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定する設問では4割の正答率で、理解が不十分であった。	・図形や立体の学習では、角、辺、頂点、高さ、底辺、底面、側面などの性質を押さえるとともに、折に触れて再確認したり、繰り返し復習するなどして定着を図る。 ・資料の読み取りや情報の選択など、他教科との連携を図る。
図形	●直方体における面と面の位置関係や図形の構成についての設問で全国平均を下回り、理解が不十分であった。 ●角の大きさを基に式の意味を記述で説明する問題では、全国的に正答が低く本校でも理解が不十分であった。また、無回答で記述できない児童が2割にのぼった。	・具体物の操作や実感を伴った資料の工夫などで理解を図る。 ・図形の定義や性質を十分に理解させるとともに、三角定規やコンパスなどの道具の扱いにも慣れるようにする。 ・図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたりすること、作図の仕方を結び付けることで、技能を習熟させる。
数量関係	○示された場面から読み取り式に表すことや、グラフからの読み取りでは8割が正答した。 ●割合についての理解や1を超える割合を百分率で表す場面での基準量と比較量の関係の理解が不十分であった。 ●ハードル走の条件に合わせた距離やタイムを求める設問で、正答率は4～5割であった。	・日常の事象を算数の内容と関連付け、表やグラフに整理したり、図に表したりしながら、筋道を立てて考え、説明する学習の機会を多く設ける。 ・割合の学習では、基準量、比較量、割合、実際の数などの関係が数直線上に示せるよう、いろいろな問題に取り組ませる。

宇都宮市立石井小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○朝食や就寝・起床時刻など肯定的な割合が高く、規則正しい生活習慣が身に付いている児童が比較的多く、保護者の意識も高いと言える。

○物事をやり遂げてうれしい経験がある97.7%や自分には良い所がある84.4%、将来の夢や目標をもっている90.6%、友達の話を最後まで聞く96.9%と肯定的な割合が高く、全国の割合を大きく上回り、多くの児童が日々の生活の中で満足感や充実感をもち様々なことに取り組んでいることが分かる。

○1日当たりのテレビ視聴では、1時間から4時間までとばらつきが見られる。テレビゲームについては2時間以内、携帯電話やスマートフォンを持っていない児童とメールやインターネットの使用は30分以内という児童合わせて85.4%と良好といえるが今後増えていくことも考えられるので注意深く見守る必要がある。

○家庭での学習は、平日・休日ともに1時間以上が8割で、おおむね定着しているが、個人差があり個別に対応していく必要がある。

○学校は楽しい89.6%、友達と会うのは楽しい96.9%、好きな授業がある94.8%と肯定的である。また、学級での話合いや協力、先生との関係についての質問でも9割以上が肯定的で、学校や学級に満足し、学習や生活を楽しんでいる様子がうかがえる。

○きまりや約束を守ることや困っている人を助けること、いじめはいけないと思うこと、人の役に立つ人間になりたいなどの意識が高い。さらに実践に結びつくよう、道徳の時間や日常生活の中で指導していきたい。

○国語や算数の学習に関する質問では、勉強が好き、大切、授業はよく分かる、難しいときでも諦めないなど肯定的な回答が9割以上である。さらに分かる授業を目指して、学習形態の工夫や教材研究に励みたい。

●家庭学習については、96.8%が宿題をしていると答えているが、予習・復習についてはあまりしていないが5割に達しており、自主学習への取り組みを奨励していきたい。

●「家の人とよく話をする」83.3%で良好な結果であるが、「手伝いはあまりしない」と答えた児童が2割おり、自主自律のためにも大切であることを伝えていきたい。

●地域や社会で起こっている問題や出来事に関心が高いが、地域社会でボランティア活動に参加したことが無いや、新聞を読まないなども多く、ボランティア活動の意義や新聞の良さなどを学習や生活の場面で伝えていく必要がある。

●学習に対する意欲が高いが、読書についてはあまり好きではないが2割おり、読書カードの活用や読書の時間の充実など読書の奨励に努めたい。